

彗星だより

ポーン・ウインネツグ彗星の接近 この彗星が地球に甚だしく接近する結果、肉眼にても認めらるであらうといふ豫想から一般人士の興味を大に高めたことである。丁度この近接の時機が内地では梅雨期に當るので山本教授は奉天に又中村君は札幌にそれぞれ赴いて観測せられたが又内地でも幸にこの期間に空梅雨で珍らしくお天気がよかつたので相當期間この彗星の観測をすることが出来た。奉天に於ける山本教授は寫眞装置をもつた望遠鏡によつて彗星の寫眞觀測を行ひ三十枚の寫眞を撮影せられた。それによつて彗星の大きさは尺徑以上で即ち月の二倍位、光度は4等級以上、又尾の長さは20位はあるといふことである。なほ6月29日の夜満月の明るさの十倍もある様な流星が現はれ、しかも丁度露露してあつた寫眞乾板の中央にうまく寫つた。

一方札幌へいつた中村氏は特にウインネツグ彗星に關聯せる流星の観測に力をいれて随分數多くの流星を觀測された。その結果によつて1921年の出現にくらべて明るい流星が出現したかの觀があることである。6月29日の夜には5等級よりも明るい流星を一時間平均15位の割合に見、又28日29日には0等より1等級位の流星を3つ程觀測せられた。28,29及び30日にかけて微かな流星は随分數多く觀測し多い盛の時分には1時間100個の流星を見たといふことである。

なほ中村君は彗星の大きさ及び光度を推定して大きさは月の約三倍であり、光級は $2\frac{3}{4}$ 等級と見積られた。

内地では前述の様に空梅雨で彗星の觀測には豫想外によかつたけれども、相當雲のためには難儀した。自分は25センチ反射鏡を用ゐて寫眞觀測をやり伊藤君は18センチ望遠鏡をもつて大き光度の測定を、また學生諸君はその他の望遠鏡双眼鏡などもつて大き光度の測定と流星の觀測を擔當することとした。その結果は大分まちまちで彗星が最も近づいた筈の6月27日夜の觀測では大きさは36'から45'位

で光度は大約4等級位といふ結果となつた。流星の數は割合に少なく27日28日に約20個位を見たに過ぎなかつた。只27日の夜稻葉、山村兩君は2等級位のを一個觀測された。

1927彗星 ステアンス彗星の位置豫報 が國際天文同盟回報第153號に出てゐる。ニールセン(Nielsen)氏の計算したものである。

萬國時0時	赤經(1927.0)	赤緯(1927.0)
7月26日	14h 1m 30s	+24° 30.5
8	3	4 6 +24 36.9
11	7 34	+24 39.7

1927彗星の發見 6月14日附のコペンハーゲン天文電報によつてゴネシアート氏がやつた彗星ゲールの觀測が報ぜられた。彗星ゲール光級10等

6月10日萬國時3時17.0分の觀測の位置は
赤經 21h 53m 4s
赤緯 —31° 38'

であり日運動は赤經にて+5m 56s
赤緯 " 0'

だといふことである。實はこれ丈では甚だ唐突で不得要領であつたがハーバード天文臺のハカキ通報27號が來て様子が解せたのである。

それによつて：コペンハーゲンよりオーストラリア、シドニーのゲール(Gale)が次の位置に於て新彗星を發見したることの通知を受く。但し觀測は不確かなりと。

日時	6月 7.6042萬國時
赤經	21h 38m 0s
赤緯	—31° 38'
光級	8m

即ち最初に觀測が不確であつたがために各天文臺へは通報せられず、アルシエール天文臺のゴネシアート氏の觀測にて確かめられた上で通知があつた譯である。まだこちらでは觀測してゐない。

今年にいつてこれで既に6個の彗星が發見せられた譯で、必しも少なくない、早や昨年の彗星發見數には只一個を残すに過ぎない。一寸期待せられることはこの彗星の軌道傾斜角が果してどの位の大きさのものだらうかといふ點である。

(1927 7 19上田)